

平成28年【第2回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成28年7月(次回調査は平成29年1月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感 (生活の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感 (地域経済の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近6ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 80.4%(123名/153名) <前回 85.6%(平成28年1月調査)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	85	69.1%
女性	38	30.9%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	41	33.3%
沿岸南部	82	66.7%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	15	12.2%
40歳台	31	25.2%
50歳台	44	35.8%
60歳以上	33	26.8%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	69	56.1%
被災なし	51	41.5%
不明	3	2.4%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 46名(37.4%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 35名(28.5%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 42名(34.1%)

■参考■

○「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、

沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が73.8%と前回(73.2%)を0.6ポイント上回り、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は3.3%と前回(5.4%)を2.1ポイント下回った。

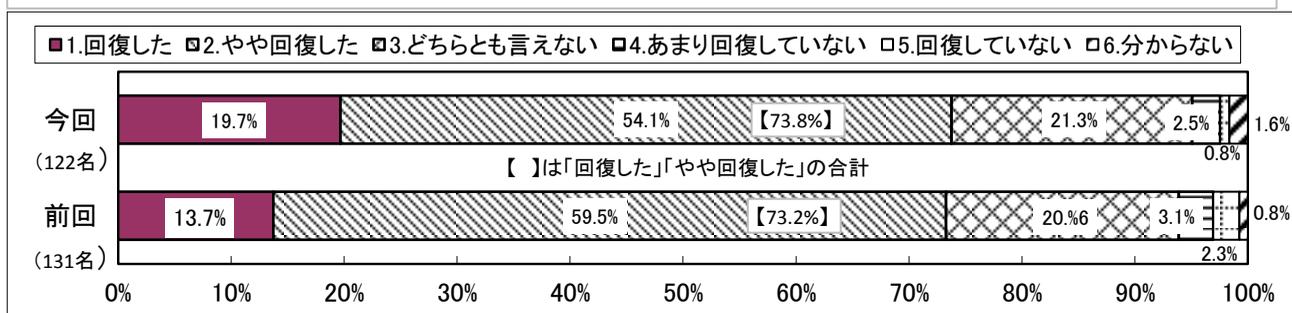
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で85.0%と前回(86.1%)から1.1ポイント下回り、沿岸南部では68.3%と前回(67.1%)を1.2ポイント上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は16.7%と、前回の19.0%を2.3ポイント下回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が68.0%と前回(68.7%)を0.7ポイント下回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は5.8%と前回(9.1%)を3.3ポイント下回った。

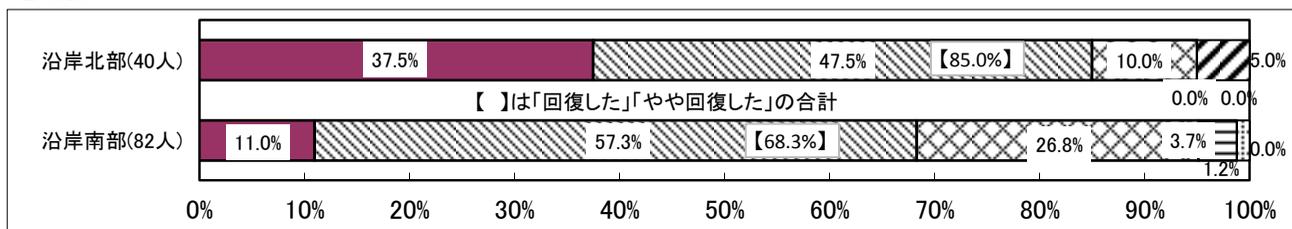
入居が進んでいることを評価する声がある一方、復興住宅へ転居した高齢者へのサポートを心配する声もあった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

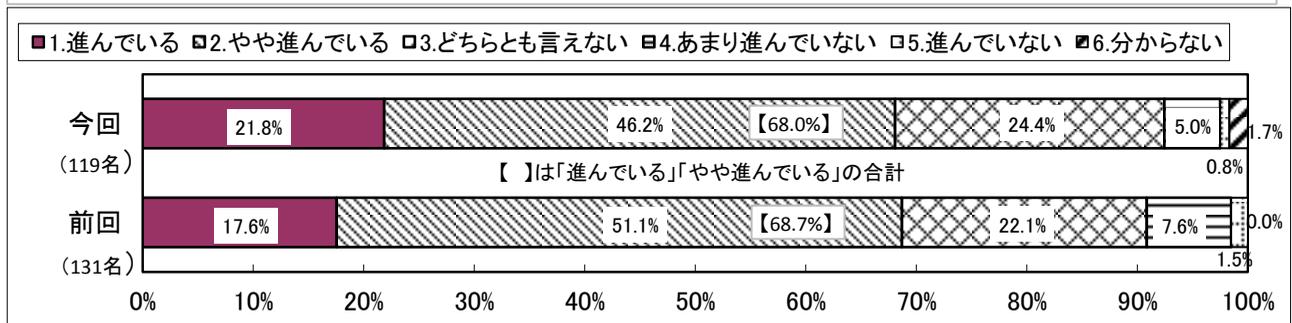


地域別

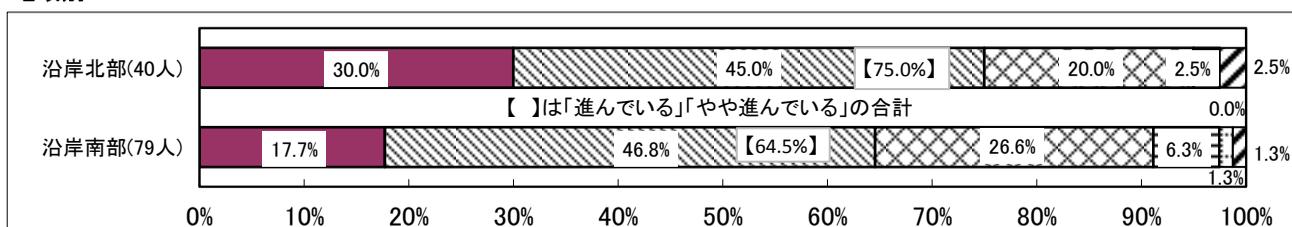


② 直近6ヶ月間(概ね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆自力再建の方々はほとんど再建している。防災集団移転関係では殆どの世帯が建築を着手しており、お盆前には再建完了の見込み。災害公営住宅が年度内に完成見込みであり、私の周辺は年度内に入居可能と思われる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆私の住んでいる村では、ほぼ高台移転先に移り住んだと思います。隣町では仮設の取り壊しが進み、高台移転先の新築も8割ほど完成。年度内には全ての移転先に新築の住宅が立ち並ぶのかと思うと胸が熱くなります。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆5月には被災者の住宅再建が全て終わり、自宅での穏やかな生活が戻ってきた。移転地での新自治会も設立され、新たなコミュニティづくりに向けた活動が期待されるが、地域課題はこれから出てくると思われる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆高台移転や土地の区画整備により住環境はほぼ整備されたと思う。人口減少、高齢化対策にも取り組む必要がある。被災した地域が被災していない地域と比べて人口減少高齢化が速く進む可能性が高いと感じられる。(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆防災集団移転地の造成工事が11月頃完了の見込。移転者は住居の建築時期の目途がたった。しかし移転者のなかには建築費用がかなり増えることが見込まれ、そのやりくりを頭を痛めている人がいる。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆住宅を再建し、仮設住宅を出た方、災害公営住宅に移った方などが今年になってから多くなりました。私の居る仮設住宅に残っている世帯は15%程となり、年内には10%以下になると思います。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆織笠地区町営災害復興公営住宅と県営災害公営住宅に入居希望者はすべて入りました。旧山田地区の災害公営住宅が完成間近のようです。建設戸数が多いので入居者は期待していると思います。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆津波を恐れて早々に山手に再建した人達は多くいます。又、元の土地は嵩上げが進まない為、町中心部でない山側に一つ町が出来ました。そこに住む皆さんは、明るく元気で普通の生活に戻った様です。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆仮設に住んでいた知人が災害公営住宅に入居したり家を建てて住んだりできるようになった。線路の工事が始まった。(40歳台,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆新築や公営住宅への入居などにより、仮設住宅の閉鎖や統合が進んでいる。(40歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆土木工事が進み住み良い街へ向けて前進しているように見える。生活は落ち着いているように見える一方、復興住宅へ転居した高齢者の方がコミュニケーションがとれず、家から出ない。サポートが必要だと思います。(40歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆自力再建や公営住宅等に入居された方が増えてきた。ただし、地域の経済力がまだまだ再建途上で、住宅ローンの支払いに不安がある。若年層の他地域への流出が続いており、地元では慢性的な人材不足に陥っている。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆災害復興住宅や個人住宅の建設が進んでおり、町並みに明らかな変化があるが、周辺整備の遅れを感じる。賃貸住宅の家賃や住宅取得費の高騰により人口流入に支障が出ている。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆災害公営住宅も完成し仮設住宅から移転している。仮設住宅の空室がけっこうあると聞いているが、依然として学校校庭の使用ができない状況である。子供たちの成長も考慮してほしい。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆自宅の再建が進んできているが、ローンがあるので暮らしは個人によってさまざま。仕事も落ち着いてきているが、復興関連の土木作業も2年前から比べると少なく収入も減っている。本来の姿に戻りつつあるのかも。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆仮設団地に居住されている高齢者は新たな場所での生活等に強く不安を感じられている方々は多い様に思われる。アンケート等も次の段階に応じた内容でもよいと思います。(39歳以下,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆高台団地の造成工事は進まず、復興住宅への入居はまだまだです。生活環境の変化には、少し時間がかかると思われます。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が57.0%と前回（54.3%）と前回を2.7ポイント上回り、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は5.0%と前回（10.9%）を5.9ポイント下回った。

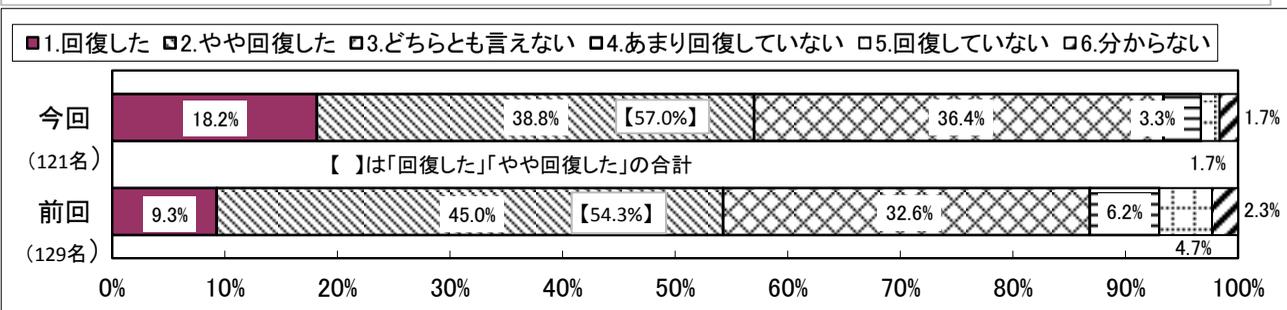
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で70.7%と前回（64.3%）を6.4ポイント上回り、沿岸南部では50.1%と前回（49.4%）を0.7ポイント上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は20.6%と、前回の14.9%を5.7ポイント上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」「やや進んだ」の合計が51.3%と前回（44.2%）を7.1ポイント上回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は8.3%と前回（10.9%）を2.6ポイント下回った。

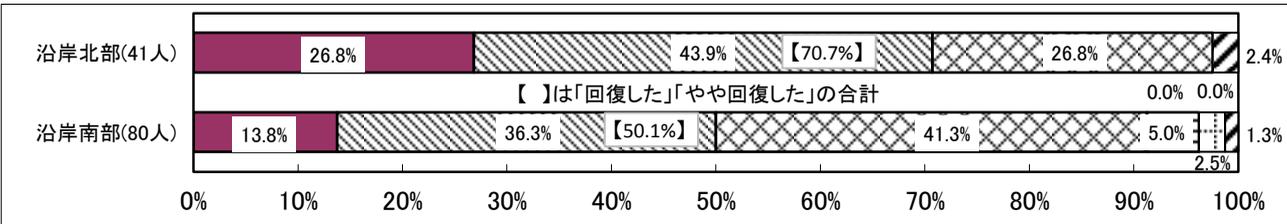
地域経済は徐々に回復しているという声がある一方、人口の減少、若年層の流出、担い手不足などを訴える声もあった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

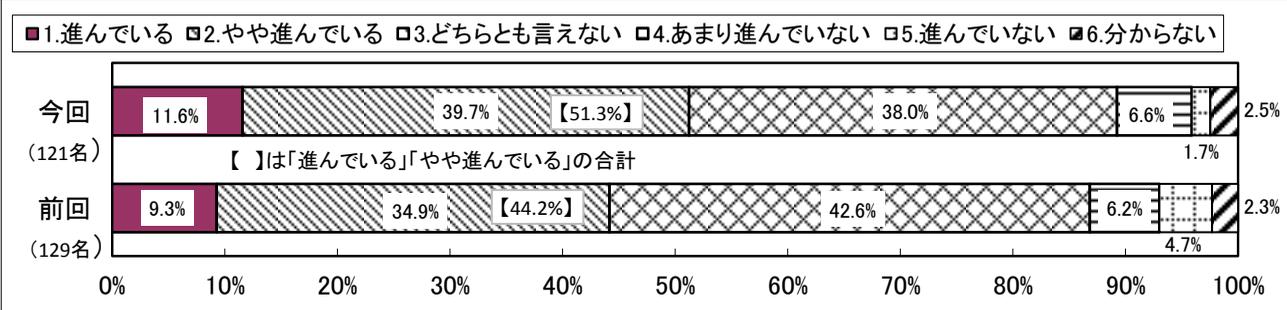


地域別

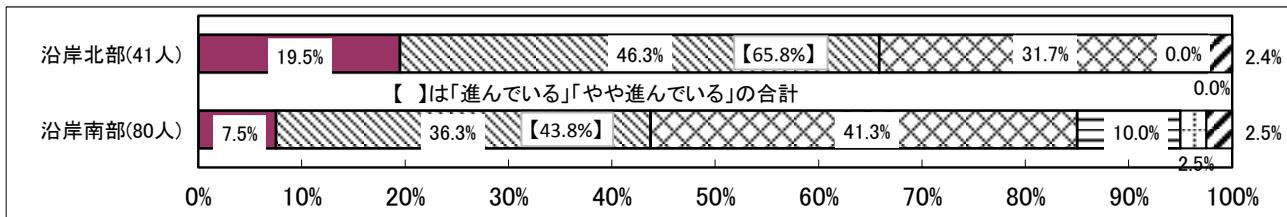


② 直近6ヶ月間(概ね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由</p>	<p>◆「震災特需」とも言える状況があり、建設業中心に経済活動は活発であるが、同業者からは来年以降の見通しが立たないとの声もある。復旧は進んでいるが、復興を望む声が多い。復興は、当事者の意識改革が必要。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆農林水産業の早期再生は図られていると思う。事業所の生産体制の構築等、基盤整備もほぼ完了しており、地域経済は徐々にではあるが回復していると思う。(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆私の住んでいる隣町では、水産庁と新たな取り組みを試みているようです。漁業者の挑戦が被災地域の起爆剤となり、六次産業の取り組みが前進する事を期待します。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由</p>	<p>◆三陸沿岸道路の建設が急ピッチで進められており、完成に伴い交通手段が大幅に改善される。これに伴う企業の誘致や雇用状況の改善及び若年層の地元定着など経済的波及効果は大きい。早期の開通を望んでいる。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆浅海養殖業の復旧復興は、安定的に復興した。磯漁業やウニ・鮑等採捕等口開け物の漁業が好調となった。しかし、震災後水産業従事者の後継者不足が問題となっている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆高い補助率で、水産関係等は整備が進んでいる様に見える。震災前から楽では無かったと思うが、後は従事者の頑張り次第だと思う。(50歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆生産体制や基盤整備は土地造成を除き、ほぼ終わりつつあるが、生産が軌道にのるかどうかはまだまだ。勘違いして基盤整備をしたところは苦しいと思う。身の丈に合った整備をした人はこれから安定してくると思う。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆復興特需とは思われるが、回復は進んでいると思う。しかしながら、農業、水産業の担い手が減少し、数年後の一次産業従事者不足が懸念される。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災からの回復という点では、地域経済は回復していると思います。しかし、人口の減少、若年層の流出という点では、厳しいと思われます。若い人が地域に残って活躍するためには何が必要か考える必要があります。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆メジャーな企業などの進出が震災前より目立っている反面、地元の商店などはまだまだの感じがします。(40歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆雇用面では多種の求人が出ているが、求職者不足が現状となっている。若者が安定して働ける職場が増えることで、若者が地域定着し経済の活性にもなると思う。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆嵩上げが必要な土地なので全店舗が公営住宅工事現場の前の仮設店舗に移転し、大きな車が行き来する中、お客さんの足が遠のきました。出張販売、お客さんの送迎と色々試みている様です。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆交通手段はバスのみ。5月のダイヤ改正により買物等、週1回にまとめてするようになった。必要でない物はもちろん趣味のものなど以前に比べ買わなくなった。住宅再建のため、節約の日々を送っている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆鮭の不漁が大きかった。ワカメ養殖などもなるべく人手をかけないような作業を選択するようになっていたので、水揚げ高も伸びない。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆事業における費用も、生活における費用も高く、安定的に収入が回復していない為、費用を大巾に削っている方法でしのいでいると思う。消耗戦といってもよい程、不安定な状態であると聞く。(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆「復興需要」は5年が経ち、熊本が新たな被災地となったので、「被災地支援」の意味がなくなり、売れなくなっていると聞く。新たなコラボやコンセプトで「被災地」を売りにしない品を売りに始めているようだ。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆高台に商業スペースができる予定といってもまだ先。地元で復興しようがんばっている人達への支援をお願いしたい(金銭面や制度面)。(40歳台,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が42.2%と前回（38.8%）を3.4ポイント上回り、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は20.7%と前回（30.2%）を9.5ポイント下回った。

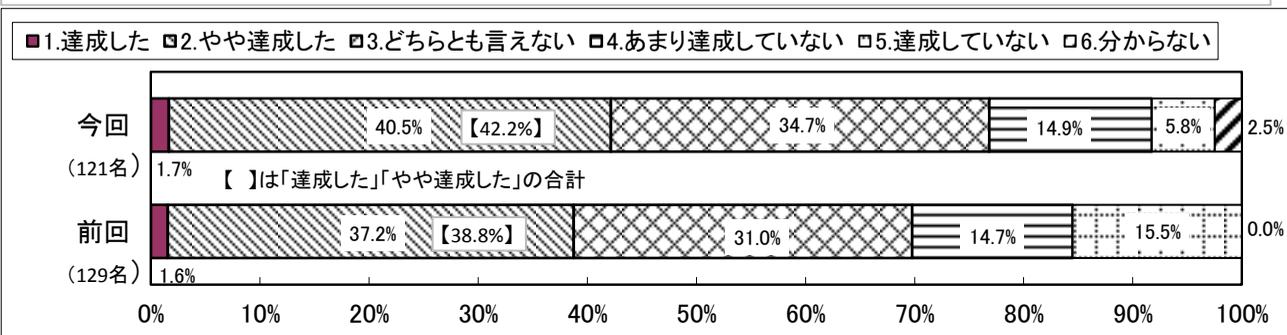
○地域別に見ると、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で63.4%と前回（53.5%）を9.9ポイント上回り、沿岸南部では31.3%と前回（31.4%）を0.1ポイント下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は32.1%と、前回の22.1%を10.0ポイント上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が57.0%と前回（53.5%）を3.5ポイント上回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は18.2%と前回（24.1%）を5.9ポイント下回った。

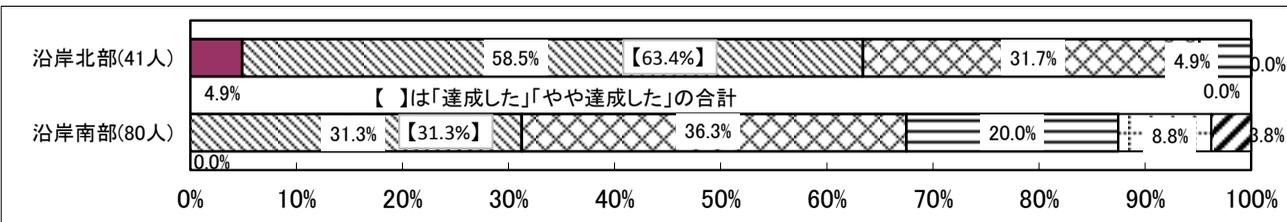
防潮堤工事や沿岸道路の整備が着実に進んでいると評価する声がある一方、震災から5年が経過し当初の思いが変化していることから、まちづくり計画への支障を懸念する声もあった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

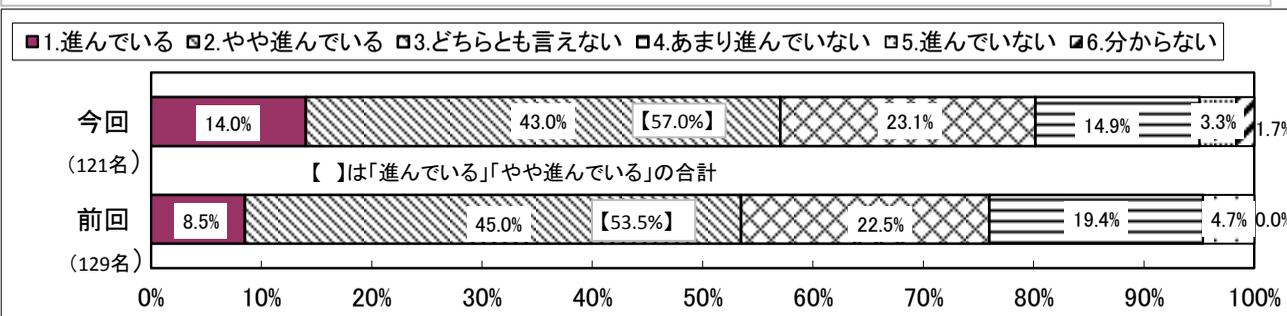


地域別

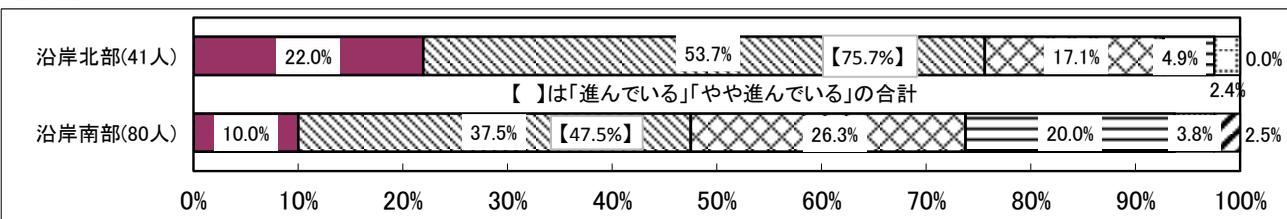


② 直近6ヶ月間(概ね1月から7月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆すべての防災設備、施設が完成した。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)
「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆新たなまちづくりのコンパクトシティの構想に伴い工事は進められているが、震災から5年も経過し、当初の思いと現在の気持ちの持ち方が変化しており、まちづくり計画に支障がでなければ良いと思っている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆海の見えない防潮堤に異様さを感じる。道路の殆どは埋め立てられないので、嵩上げ用地が高くなり、凸凹の多い街並に変容しようとしている。良いのか悪いのかわからない。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆消防署や病院が建設され一安心している。防災無線機も貸与され、家の中に居て放送(情報)が良く聞こえるようになった。室内アナウンスでは聞こえない地区なので外アンテナ設置にお金はかかった。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆防潮堤が以前より高く作られた。保育所や学校で定期的に避難訓練を行っており、実際に高い山にも登っている。(40歳台,教育・福祉施設関連,沿岸南部) ◆要支援者等弱者の把握等調査は進んでいるように感じているが、その情報がどう使われ活かされるのか。先の熊本地震でも弱者の救済が問題視された。地域全体で情報をどう利用していくか等横の連携の点で不安が残る。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部) ◆ダンプカーも台数も減り工事完成区間が増えてきたのかと感じます。地元の運送会社の経営者から「仕事が無くなるのが、少し早過ぎた」と聞いた事があります。(50歳台,教育・福祉施設関連,沿岸北部) ◆防潮堤の工事は着実に進んでいる。又、防災ビルを兼ねた公民館等の建物も二カ所で工事が始まり、区画整理事業と並行して避難路の整備も進みつつある。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)
「3.どちらとも言えない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆沿岸の街は「海とともに暮らす」ことが大切である。防潮堤の整備は従来の高さ程度にとどめ、高台に続く避難道路を整備した方がいいと思う。後世に「何でこんな無駄に広い道路があるの」と言われるくらい。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆未完成な所もありまだ不十分と感じる。大震災と同規模のものに耐えられるのか不確定。であれば、避難をスムーズにできる街づくりを優先すべきと思う。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆防潮堤の取り壊しを今している。工事業者が違うので進み方が違う。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆沿岸道路の整備が進み、避難・支援の体制は整ったと感じます。浸水区域内の避難所への誘導表示はもっと多くても良いと感じます。(39歳以下,教育・福祉施設関連,沿岸南部) ◆工事は確実に進んでいるとは思いますが、道路状況が悪いと思います。海沿いの道路で道が変わったり、渋滞しては逃げられないと感じます。一本迂回路でもあれば良いと思います。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)
「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆津波のシミュレーションによるまちづくりのために、高台に行く道路が複数廃止になり、迂回しなければ避難できない街が完成に近づいている。人工の構造物がいかに脆いものなのかを、何故学習できないのか。(50歳台,地域団体・郵便局関連,沿岸南部) ◆水門工事の遅れが見える。防災に関する市町村の広報による周知記事の減少。防災訓練の未実施。(50歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部) ◆被災した校舎、津波浸水区域で授業を行っている小学校が2校ある。1校は高台に移転する予定である。もう1校は常に不安の中で生活している。子供たちはちょっとした地震でも顔色が変わり、机の下に避難する。(40歳台,教育・福祉施設関連,沿岸南部)
「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<ul style="list-style-type: none"> ◆嵩あげ地は従前からの水路等がなく、高台造成地からの雨水等の量があふれている事が多いのでその事を後回しにして進めるとすればむしろ安全度が低下していると言わざるを得ない。(40歳台,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数（D I）の推移

<動向判断指数（D I）>

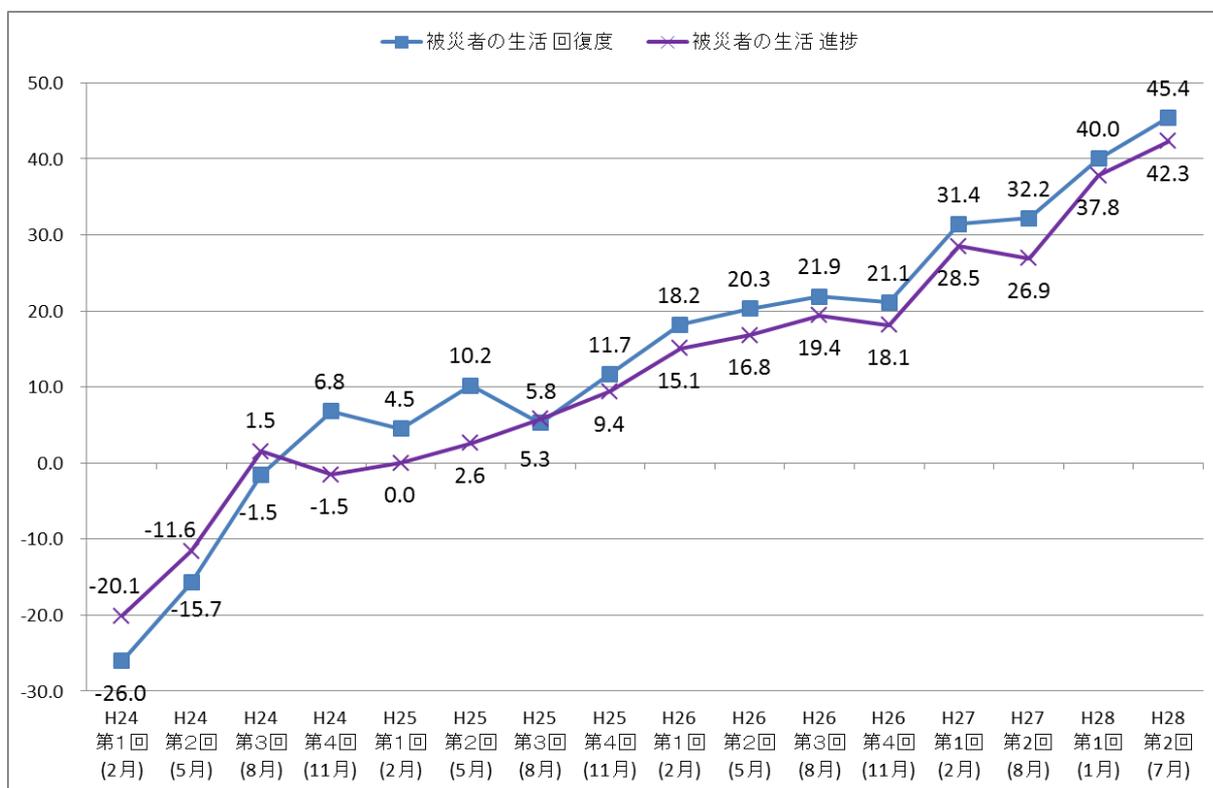
掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数（D I）について時系列にその推移を表わしたものである。

動向判断指数（D I）は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する

$$\text{動向判断指数（D I）} = \frac{\{(A \times 2 + B) - (D + E \times 2)\}}{2} \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

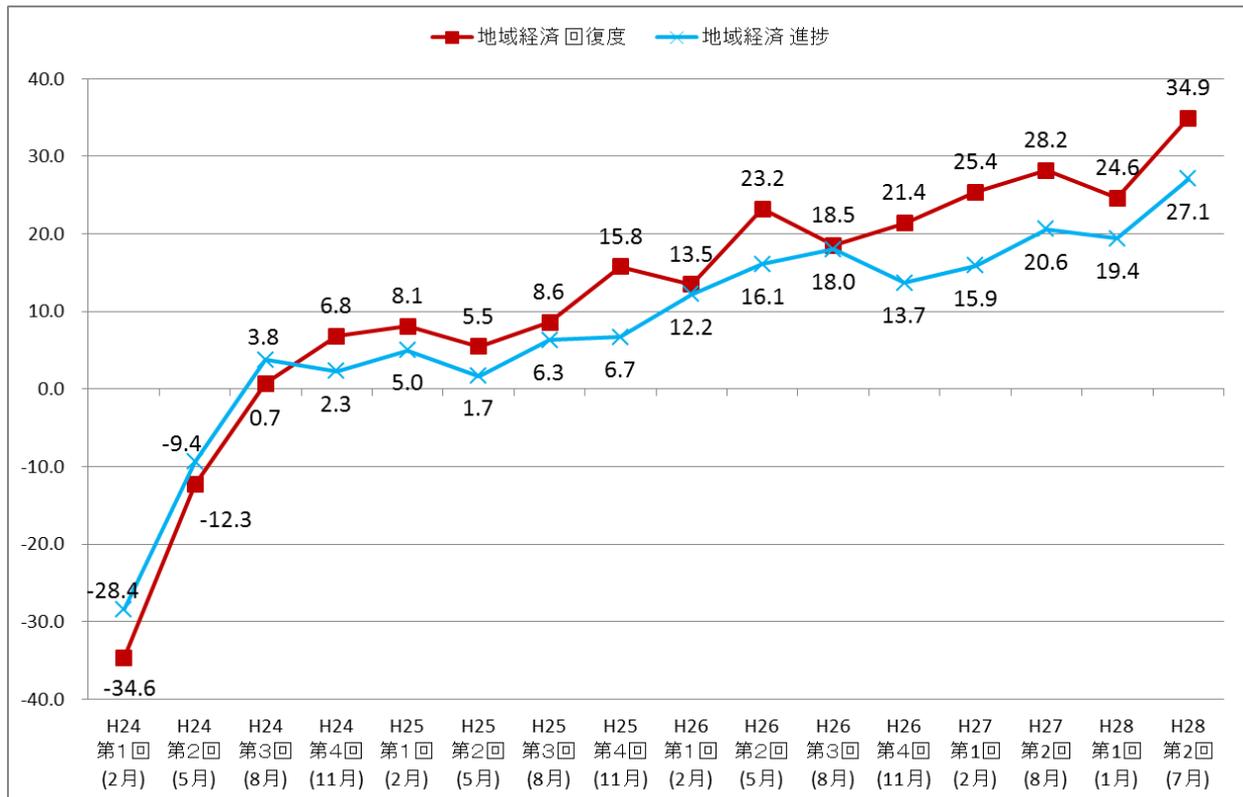
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる（他の選択肢についても同様）。

【被災者の生活】回復度と前回調査から※の進捗状況に対する実感



※H27 第1回調査までは直近3ヶ月間、H27 第2回調査以降は直近6ヶ月（今回であれば、概ねH28年1月～H28年7月）を指す

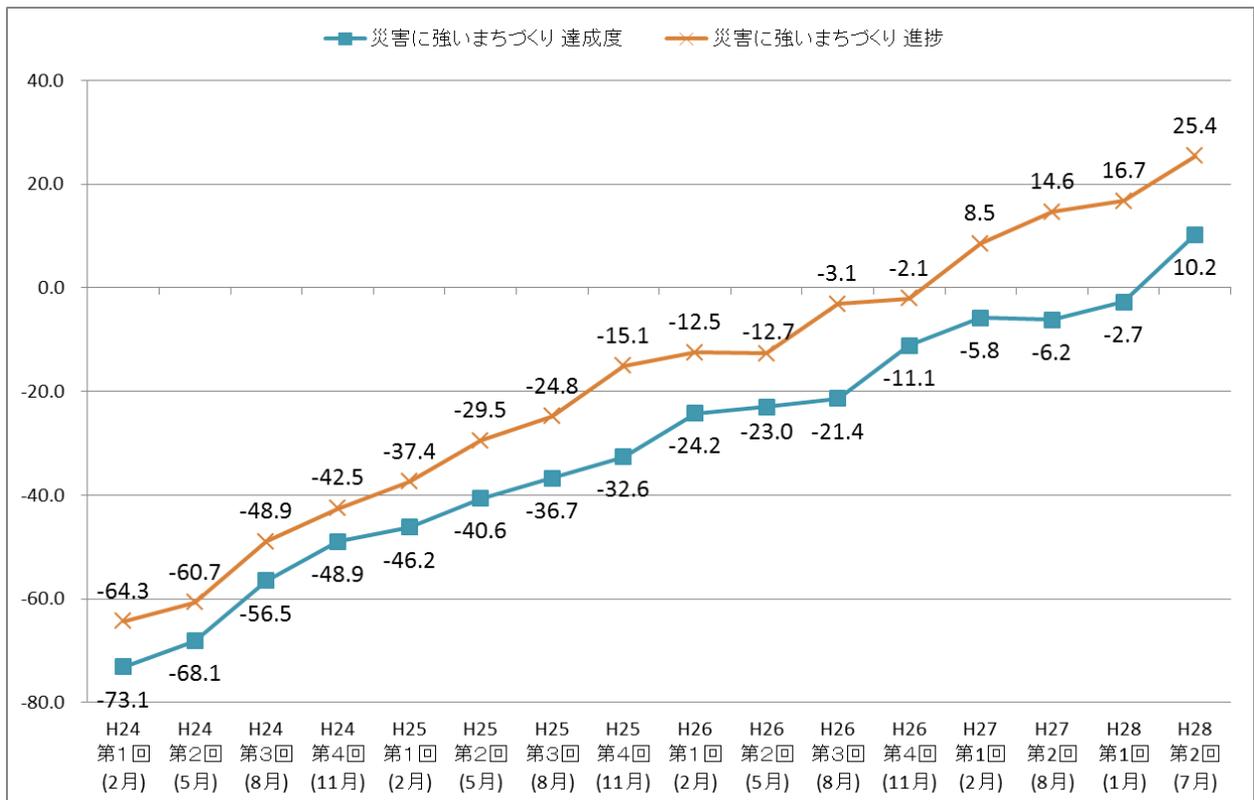
【地域経済】回復度と前回調査から※の進捗状況に対する実感



※H27 第1回調査までは直近3ヶ月間、H27 第2回調査以降は直近6ヶ月（今回であれば、概ねH28年1月～H28年7月）を指す

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査から※の進捗状況に対する実感

達成度において、調査開始以来初めて動向判断指数（DI）がプラスとなった。



※H27 第1回調査までは直近3ヶ月間、H27 第2回調査以降は直近6ヶ月（今回であれば、概ねH28年1月～H28年7月）を指す

平成28年【第2回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

平成28年8月29日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：岩手県震災復興・復興の動き

<http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/>